

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1091100212		
法人名	株式会社 築瀬の郷		
事業所名	グループホーム沙羅林郷原の郷		
所在地	群馬県安中市郷原1262-2		
自己評価作成日	令和3年8月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	令和3年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員一人一人が利用者個々を大切にし、機械的な介護ではなく、温かみのある介護を目指し取り組んでいる。日々、笑顔が絶えない雰囲気作りにも職員一同力を入れている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日々の生活のなかで、職員が気を配り会話を多くもち、笑顔たえない暮らしが送れるように支援している。そうした冗談を交えた会話のなかで、利用者の本音をさぐり、コロナ禍で制限した活動のなかで、食べたいものを聞いて提供したり、レクリエーションの内容を変えながら気分転換を図ったりしている。また、職員の自発的な意見を大切にしながら季節ごとにおはぎづくりなどをしたり、食事形態の相談をしたり、慣れ親しんだ職員が髪を切ったり、さまざまな工夫がされている。そうしたなか、健康管理においても細心の注意を払い、薬ノートには、利用者ごとに薬の名前・情報が整理され、職員からの連絡事項も記載されるようになっており、さらに緊急時にはそれをもって行けるようにしている。その他、情報交換ノート・申し送りノート・介護記録など、職員で情報を共有する仕組みづくりがされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホールに掲示し、いつでも確認出来る様にしている。	管理者は、理念にある利用者の事業所での第二の人生を幸福で過ごせるように、心配のない安心した生活が送れること、それが家族の幸福につながると職員に説明している。時には、掲示している理念をみて、日頃のケアに立ち返るよう機会をつくっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の今はほとんど交流が出来ていない。	コロナ禍前は、2～3ヶ月に1回歌や踊りの訪問があり、地域の人に案内をして、ともにたのしむ機会があったが、現在は中止している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民と関わられるよう努めてきたが、コロナ禍の今は、あまり活かしているとは言えない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今は、市の担当者との推進会議となっているが、意見交換、質疑応答をして、サービスの見直し等行っている。	コロナ禍で、市職員だけが参加した運営推進会議を開催している。コロナ禍前は、参加メンバーが出席しやすい夜に開催しており、そうしたつながりから、ギター演奏会をたのしむ企画に発展するなど、サービスに活かす努力をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービス調整会議、運営推進会議などで市町村担当者とは協力関係を築いていくよう取り組んでいる。	2ヶ月ごとの市職員との運営推進会議で、警戒度にあわせた面会やその方法を相談したり、入居にあたり介護度の相談をしたりして、運営を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急時及び家族の同意がなければ身体拘束は行わない。	帰宅願望の利用者には、できるだけ気が紛れるように掃除や洗濯物たたみなどをしていただいたり、低床ベットを用意し床にはマットを敷いたりするなど、危険を回避することで身体拘束をしないケアに努めている。また、センサーマットや防犯カメラの設置の他、見守りを重視している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や日頃の話し合いの場で職員同士が注意を払い防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している方はいないが、活用できるようにしたい。司法書士の方を招いて勉強会を行いたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族、利用者同席にて施設の一日の動きや設備等説明して、理解、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には電話・モニタリング等の時に聞いている。利用者本人は、いつでも耳を傾けている。	家族とのやりとりはケアマネジャーを中心に行われており、ケアについての話し合いが主になっている。管理者は、家族のお世話になっているという事業所へ言えない心情を理解しており、遠方の家族も多いなか、家族から運営についての意見を聴取する方法や機会を模索している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時、月一回の職員会議で職員の意見を聞く機会を設けている。	月1回の職員会議や、日頃の業務のなかで、職員の意見が出されている。管理者は、職員からの自発的な意見を大切にしたいと考えており、そうしたなか、受診付き添いの方法や介護記録の記載方法などの提案が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の現状を把握し、少しでも向上心を持って、気持ちよく働ける職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人の希望のみならず、会社から研修参加を促し、又、研修後は職員会議において他の職員にフィードバックするよう努めていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ前は、HPや同業者等から研修の案内が来た時などは参加できるような取り組みをしていたが現在は控えている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望等を聞き、職員共有で関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日常で困っている事、施設に入所するに当たって、不安や要望に耳を傾け、安心して頂けるように話を進めていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	モニタリング、家族との話し合いで対応し、他のサービスも視野に入れ、話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	少しでも家族に近い存在になれる様、日々努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	リモート面会や電話連絡等で近況報告や体調報告して関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナのため、今は面会、ボランティア等の交流は遠慮してもらっている。	コロナ禍で制限されているが、以前には、入居前からつきあいのあるマッサージ師の施術を受けたり、宗教の関係者が通知を持ってきたり、これまでの生活が継続できるようにしていた。現在は、漬物をつくるのに大根を洗ってもらったり、慣れ親しんだ作業ができる機会をつくっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様誰とでも話が出来る場を作っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから直接相談支援は進めていないが、家族から相談があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人目線になって支援している。	日頃から会話を多くもち、冗談を言いながら和やかな雰囲気づくりに努め、そうしたなかで本音を理解するようにしている。利用者から声をかけられた時はもちろん、職員が掃除に入った時など居室で聞くこともあり、意思疎通が困難な場合には、発言や表情から、本人の気持ちを推測して検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の基本情報等確認し、家族と話し合い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の介護記録、申し送りなどで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネの作成したプランを基に、本人、家族の意向に沿えるよう努めている。	日々の申し送りノートや介護記録・情報交換ノートで、職員の気づきや連絡事項が記載され、職員間での共通認識とケアマネジャーが介護計画を作成する要素となっている。日々の記録ファイルには、介護計画書がファイルされ、モニタリングの余白欄には職員で検討した内容を記載して、次につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝礼や気付いた時など記録したり、話合って共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時一番必要なニーズに臨機応変に取り組めるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ前も、コロナ渦の今も十分に地域資源を活用できてはいない。今後の課題である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期的な往診、又は受診などの支援など行っている。電話は24時間対応となっている。	事業所の協力医により、利用者の状態にあわせた頻度による往診が行われている。これまでのかかりつけ医の受診は、基本家族の対応であり、日頃の状況を家族に伝えている。往診では、日頃の状態を相談し薬の調整をしてもらうなど、最適な医療が受けられるように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の行動で捉えた情報なども報告し共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、病院関係者との情報交換などを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医師、職員、3者で事前に方針を決め、共有している。	方針を入居時に伝え、医師の余命宣告があつてから、看取りにあたり、訪問看護を導入するか等家族の意向を聞き、事業所でできること、できないことを説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	慌てず対応できるよう、緊急連絡網の設定や応急手当等の研修に参加していくよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所の確認、消防立ち合いで避難訓練を年2回行っている。(コロナ前は消防署員立会い)	年2回事業所内での避難訓練を実施しており、うち1回は夜間想定で行われている。過去には、地域に案内し行ったこともある。区長から、地域での災害時の避難場所などの説明を受けている。	特に夜間想定においては、避難した利用者の安全確保などに地域住民の協力が不可欠であり、今後そのための体制づくりに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他の利用者にわからないように個人の部屋にて話を聞いたりしている。	利用者の対応は、個々において異なるが、病気のことと言わない・家族のことと言わないなど、注意を払っている。入浴は他の利用者が同じ空間にはいないようにしており、トイレでは職員が立ち入らないようにそって見守りするなど、羞恥心に配慮した支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のやりたい事や希望を聞き、出来る限りの支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や着替えなど、急がせず、その人のペースで見守りながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みに合わせ、身だしなみの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一緒に食べるようにしているが、準備や片付けは出来ていない。	食材が届き、職員が調理している。月1回程度、利用者から食べたいもの(ときには、カップラーメン)の希望が聞けたときには、はやいうちにその食事を提供している。その他、季節にあわせておはぎを作ったり、お月見だんごを作ったりして、たのしめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェックを行い、記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの確認、及び支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間でトイレ誘導を行い、尿意、排便など本人から訴えあれば支援を行っている。	下肢筋力をおとさないことがトイレで排泄できることと考え、廊下を歩いたりしている。コロナ禍前は、月2回エアロビの先生による運動があった。昼間だけでもトイレで排泄できるようにしたり、できないところだけを一部介助したりして、できるだけ自分でできるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、食物繊維摂取、下腹マッサージ、または医者からの指示の元下剤等を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人のペースに合わせ、プライバシーに配慮し、安全に入浴している。	週3日、月10日を目安に、機械浴槽での入浴が行われている。入浴の機会は、全身観察の機会とも捉え、あざがないか、爪がのびていないかなど確認している。嫌がるひとには入浴という言葉を使わずに促し、無理せず、時間をおいたり翌日に変更したりして支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人希望にて就寝して頂いている。室温調整、寝具調整など行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状などに目を通し、目的、副作用、用法、用量を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションで歌をうたったり、工作をしたり、時には、洗濯物をたたんだりしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節折々に外出等していたが、今はコロナ禍で出来ない状況である。	コロナ禍前は、毎年恒例のなし狩りを職員総出で対応したり、菊の展覧会に2～3名の利用者を数回に分けて出かけたりしてきたが、外出することが難しくなっている。外気にふれる機会を持ちたいと考えているが、今後の課題とも考えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今は外出も出来ないので、家族の同意を得て、金銭の所持は禁止している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望通り、手紙、電話の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、利用者が作った作品を飾ったりしている。	共用空間は日差しが入り、あたたかい環境となっている。壁には折り紙を飾っており、折れない方にも貼ってもらい、利用者が参加しての環境づくりとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者個々の居室にて、思い思い過ごしてもらえるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や家電など使い慣れた物を持って入ってもらっている。	孫や子供の写真・遺影が飾っており、そうした写真を糸口に、孫や子供の話題に発展させている。洋服タンス・机やテレビなどが持ち込まれ、テレビを見る方もいる。各居室には、トイレと洗面台があり、内側から鍵をかけることもできるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入口等にトイレや浴室等といった張り紙をして、何処に何があるのか分かる様にしている。		